


第3章 深谷市・深谷市社会福祉協議会 事業評価

以下は、「第2次深谷市地域福祉計画」及び「第2次深谷市地域福祉活動計画」における各事業の深谷市及び深谷市社会福祉協議会の進捗状況の事業評価（自己評価報告）となります。

（調査実施：平成29(2017)年11月～12月）

事業別評価の判断基準



評価	判断基準
1	事業を廃止すべきである
2	達成できず、事業の根本的な見直しが必要である
3	達成できず、事業の改善・工夫が必要である
4	達成はできなかったが概ね順調に進められた
5	目標を達成できた

目標1 ふれあい・交流が盛んな地域をつくる

事業別評価

取り組み内容（深谷市）	H28	H29
パトロール回数 （青少年健全育成環境づくり事業）	5	5
市民大会開催回数 （青少年健全育成環境づくり事業）	5	5
自治会加入率	4	4
広報等の配布協力自治会割合	5	5
「ごみの分け方・出し方」啓発チラシ 配布数	4	—
雑草等苦情処理率	4	4
「親の学習」講座の開催	5	5
学級講座開催延べ回数	4	4
体育レクリエーション事業参加者数	4	4
自治会館建設・改修の補助金交付率	5	5
苦情対応率（公園維持管理事業）	5	5
ふれあい・いきいきサロン延利用者数	5	—
地域のお茶の間開設数	3	5
健康教育実施回数	4	—
介護予防教室の開催数	5	—
スポーツ教室の開催	5	4
特定健診実施率	3	—
胃がん検診受診率	3	—
健康マイレージ事業参加者	5	5
啓発回数（地域医療推進事業）	4	5

（注）「—」は該当なし又は年度末評価事業のため未評価

取り組み内容（社会福祉協議会）	H28	H29
安否確認延べ人数	4	—
ボランティア活動をするときのマナー 向上啓発実施回数	5	5
ふれあい・いきいきサロン開催地区数	5	—
屋内ゲートボール場すばーく深谷 利用日数	4	—
屋内ゲートボール場すばーく深谷 利用者数	4	—
屋内ゲートボール場すばーく岡部 利用日数	5	—
屋内ゲートボール場すばーく岡部 利用者数	5	—
ふれあい・いきいきサロンを毎月1回 以上開催している地区数	3	—
健康に関する内容を実施したサロン数	4	—
熱中症やインフルエンザ、ノロウイルスなどの 予防啓発実施回数	4	—

深谷市の課題と取り組み（抜粋）

取り組み	現状及び課題	今後の取り組み
自治会加入率	自治会加入率は減少傾向にあるため、その傾向を改善する。	自治会加入を促進するためのパンフレットを市役所窓口等で配布する。
「ごみの分け方・出し方」啓発チラシ配布数	平成30（2018）年3月を予定しているため、現在は未実施となっている。	年度末に配布する予定のため、より多くの方々に配布できるように配布方法を検討する。
雑草等苦情処理率	市民等からの相談により土地の状況調査等をした結果、「土地所有者等の連絡先が不明」であったり、「相続問題等の諸事情」により、指導等の対応が困難なケースが増加している。	空地等の雑草繁茂の相談に対し、引き続き土地所有者等に対して、適正な管理をするよう指導していく。
地域のお茶の間開設数	地域住民への周知方法。	開設数を増やし、より多くの方に利用していただく。
健康教育実施回数	日常的に運動している市民を増やすことは重要であるが、市ではまだ十分な現状ではない。特に働き盛り世代や子育て世代に対し、運動に取り組むための支援が必要である。	運動に関する健康教育を継続して行うとともに、気軽に取り組める運動として「歩く」ことを推奨し、機会や場所に捉われず自分のペースで自由に歩くことができる事業を実施していく。
特定健診実施率	特定健康診査の受診率は緩やかに上昇しているが、目標値の達成は困難な状況である。	健診会場、実施時間、及びレディースデーの拡充を行う。 特定健康診査の受診者対象の抽選賞品の再検討を行う。
胃がん検診受診率	がん検診受診率については、受診率が低下した検診も多く、受診率向上につながるような取り組みや周知の見直しが必要である。	がん検診について周知に力を入れるとともに、検診の必要性等についても啓発していく。また、国の指針に基づき精度の高い検診となるよう実施方法等の見直しを図っていく。
啓発回数 （地域医療推進事業）	普及啓発に加え、信頼できる「かかりつけ医」をいかにして見つけるかについて周知していくことも必要であり、現状ではできていないことが課題と言える。	かかりつけ医の普及啓発については、より多くの市民に対し啓発できるよう、今後もチラシの配布、各種情報誌等への記事掲載などの取組を強化していく。

社会福祉協議会の課題と取り組み（抜粋）

取り組み	現状及び課題	今後の取り組み
ふれあい・いきいきサロンを毎月1回以上開催している地区数	地域の特性によって、開催回数も様々。開催回数だけにとらわれず、無理せず、地域の拠り所をつくっていただけよう、地域の関係者に協力を要請する。	サロン未実施地区への事業説明に出向き、地域住民主体のもと、社協としては、側面的なバックアップ支援を行う。
健康に関する内容を実施したサロン数	サロン参加者の多くが高齢者ということもあり、サロンの実施内容でも、健康に関する内容も多いのが現状。	介護予防の面で深谷市が推進しているふっかちゃん体操、ふっかつ体操の推進。

目標値の状況（※市民アンケートの回答の中で「できている」の回答割合）

	策定時	中間評価		目標値
社会のモラル・マナーの教育	9.2	11.8	↗ 2.6	14.0
声かけなど隣近所との交流	46.8	44.7	↘ -2.1	52.0
世代間交流ができる場を設ける	5.4	4.9	↘ -0.5	10.0
既存施設を充実させ、有効活用する	8.5	6.1	↘ -2.4	13.0
サロンなど気軽に集う機会をつくる	12.5	19.8	↗ 7.3	19.0
適度な運動を日常に取り入れる	26.7	31.4	↗ 4.7	35.0
定期的な健康診査を受ける	56.1	57.4	↗ 1.3	62.0

目標2 SOSに応えるしくみをつくる

事業別評価

(注)「-」は該当なし又は年度末評価事業のため未評価

取り組み内容（深谷市）	H28	H29
地域支え合いマップ作成自治会数	5	5
高齢者等見守り活動補助金を活用した見守り実施団体数	4	4
深谷市見守りネットワークに関する協定締結事業者数	5	5
PR活動実施回数 (民生委員児童委員運営事業)	3	3
民生委員児童委員活動内容の認知度	-	3
自主防犯組織の設置数	3	3
防犯関係活動団体数	4	3
青色回転灯装着車両によるパトロール回数	5	5
総合防災訓練実施回数	5	5
総合防災訓練参加者数	5	5
福祉避難所設置数	5	-
自主防災組織の組織数	3	-

取り組み内容（社会福祉協議会）	H28	H29
安否確認延べ人数	4	-
身近な相談窓口として社会福祉協議会の活動内容を知っている割合	4	4
ボランティア活動保険に加入した防犯関係のボランティア数	4	-
防犯に関する内容を実施したサロン数	5	-
災害ボランティア養成講座の参加者数	2	3
災害ボランティアの登録者数	4	-

深谷市の課題と取り組み（抜粋）

取り組み	現状及び課題	今後の取組み
高齢者等見守り活動補助金を活用した見守り実施団体数	高齢者等見守り活動補助金を活用した見守り実施団体数については、老人クラブ数の減少により、頭打ちとなっている。	見守り活動実施団体数については、老人クラブ以外の地域の団体へも制度を周知していく。
PR活動実施回数 (民生委員児童委員)	深谷市福祉健康まつりにて、深谷市民生委員・児童委員協議会としてブースを出展し、啓発品と共に民生委員活動についての資料を配布した。	来年度もまつりに出展し、民生委員活動のPR活動を継続して行うよう促していく。 また、他にも民生委員活動をPRできる場があれば、民生委員に対し参加を促していく。
自主防犯組織の設置数	地域での防犯パトロール活動は、犯罪抑止に有効と考えている。	自治会長会議などで、自主防犯組織を設置していない自治会へ組織の立ち上げを促していく。
防犯関係活動団体数		
総合防災訓練実施回数	総合防災訓練は平成29年度も計画通り実施できた。ただ、参加者については目標値より大幅に達成できているが、昨年度より減少している。	総合防災訓練に多くの市民が参加することで防災の意識が更に高揚していくため、訓練の内容がマンネリ化しないように新たなものを取り入れていきながら実施して行く。
総合防災訓練参加者数		
福祉避難所設置数	設置数は、目標値を達成しているが、引き続き増加していくことが望ましい。	要配慮者にとって、避難生活をする上で重要な避難所となることから、福祉施設の理解と協力を得ながら増やしていく。
自主防災組織の組織数	未結成自治会に対して説明を行っているが、自治会員の同意が得られないなどの理由から結成に至らず、目標値へは届いていない。	未結成自治会へ個別に自治会長に訪問するなど、引き続き、目標値達成に向けて促進して行く。

社会福祉協議会の課題と取り組み（抜粋）

取り組み	現状及び課題	今後の取り組み
身近な相談窓口として社会福祉協議会の活動内容を知っている割合	社協の名前は聞いたことがあるものの活動内容まではわからない方が多いのが現状。	身近な相談先としての認識を高めるため積極的に地域に出向き、地域にニーズの把握に努める。
ボランティア活動保険に加入した防犯関係のボランティア数	防犯関係のボランティアがほぼいない。	防犯関係のボランティアを増やすのではなく、地域ぐるみで防犯を推進していく機能、ネットワークを構築していく。
災害ボランティア養成講座の参加者数	平成29年度に実施したが、参加者が少なく、関心も無いのが現状。	『災害』というものが実際に身近に起こりえるものだという認識をもっといただく、意識付けの向上を図る養成講座を開催していく。
災害ボランティアの登録者数	災害ボランティア活動のマンネリ化。	様々な場面で災害ボランティア活動のPRや登録を行っていく。

目標値の状況（※市民アンケートの回答の中で「できている」の回答割合）

	策定時	中間評価		目標値
支援が必要な人の把握と見守り	6.9	6.6	→ -0.3	11.0
身近に相談相手をつくる	32.5	37.8	↑ 5.3	43.0
見守り活動や声かけ運動の実施	11.5	12.5	↗ 1.0	18.0
避難場所を把握する	38.3	36.1	↓ -2.2	44.0
各家庭において災害対策を講じる	17.1	18.2	↗ 1.1	26.0

目標3 サービスが利用しやすい環境をつくる

事業別評価

(注)「-」は該当なし又は年度末評価事業のため未評価

取り組み内容（深谷市）	H28	H29
公民館だより発行部数	5	4
広報等の配布協力自治会割合	5	5
見守りネットワーク協定締結事業者による情報交換会の開催	4	-
地域福祉懇談会の開催	-	4
広報ふかやの認知度	4	-
市ホームページアクセス数	3	-
パンフレット発行部数 （高齢者福祉政策推進事業）	5	5
ユニバーサルデザインの普及啓発活動実施回数	4	4
ユニバーサルデザインの普及啓発活動参加者数	4	4
障害者等の理解を深めるための講演会	5	5
障害者文化作品展来場者数	4	4
人権問題自治会別研修会参加者数	4	4
認知症サポーター養成講座参加者数	5	-
障害者スポーツ大会参加者数	4	4
移動支援事業月利用時間	4	-
手話通訳者派遣数	4	-
要約筆記者派遣数	5	-

取り組み内容（社会福祉協議会）	H28	H29
社協だより発行回数	5	5
社会福祉協議会ホームページアクセス数	5	-
ボランティアだより発行回数	5	5
ボランティアかわらばん発行回数	5	5
福祉サービス利用援助事業や成年後見制度について社協だよりなどへの掲載回数	3	-
総合的な学習の時間にボランティア団体を派遣した回数	4	-
福祉の心を育む交流事業に参加した小・中学校数	4	5
福祉の心を育む交流事業に参加した福祉施設数	4	5

深谷市の課題と取り組み（抜粋）

取り組み	現状及び課題	今後の取組み
地域福祉懇談会の開催	2年に1度の隔年開催のため平成28年度は未開催である。平成29年度の現状値は177回であるが、全ての自治会での開催を調整中である。	画一的な開催ではなく、各地域に合った形で、地域福祉懇談会を開催していく。
広報ふかやの認知度	自治会を通じて自治会加入者に每户配布しているほか、公共施設、コンビニなどに設置し、情報を得やすい環境を整えている。	新規開店したコンビニなどには、広報の配架依頼を行い、誰もが情報を得やすい環境を整える。
市ホームページアクセス数	トップページのアクセス数をカウントしている。トップページからではなく検索サイトから直接各ページにアクセスされている件数が多く、ホームページ全体へのアクセス数は例年通りである。	制度の申請時期に合わせてホームページの各課で新着表示を行ったり、ページごとに適切な時期に情報の更新を進められるようにする。
人権問題自治会別研修会参加者数	参加者の大多数は、公民館及び自治会の役員や民生児童委員等の地域の指導者的立場の方であり、一般の市民の参加は少ない傾向にある。	講義型のほかに参加型方式の研修会を採用することで、研修内容が参加者にとって理解しやすい内容となるよう努めている。また、より多くの市民の参加が図れるよう、研修会の周知方法等を工夫していく必要がある。
障害者スポーツ大会参加者数	スポーツを通じて親睦を図り、障害に対する理解を深めるため、深谷市ふれあいスポーツ大会を深谷ビッグタートルで毎年開催している。	今後も障害に対する理解を深めるためふれあいスポーツ大会を開催し、障害者が社会参加しやすい環境の整備を行う。

社会福祉協議会の課題と取り組み（抜粋）

取り組み	現状及び課題	今後の取組み
福祉サービス利用援助事業や成年後見制度について社協だよりなどへの掲載回数	定期的に掲載はしていない。	定期的に情報を発信するようにする。
総合的な学習の時間にボランティア団体を派遣した回数	市内の小中学校の福祉教育担当の先生を対象に、ボランティア派遣や福祉用具の貸し出し方法を説明。派遣可能（指導も含む）なボランティアの高齢化が課題。	ボランティア（指導・派遣可能な団体）と連携の上、今後も事業実施していく。
福祉の心を育む交流事業に参加した小・中学校数	平成29年度より市内すべての小・中学校と高齢者福祉施設17施設にご協力いただいている。	より多くの関係が持てるよう交流の組み合わせは定期的に変えていく。また、障害者施設とも交流できるように進めていく。
福祉の心を育む交流事業に参加した福祉施設数	各々の交流関係は5年目になりスムーズな取り組みがなされている。	

目標値の状況（※市民アンケートの回答の中で「できている」の回答割合）

	策定時	中間評価		目標値
地域で情報を共有する	7.0	4.2	↓ -2.8	11.0
広報を読み情報を得る	43.3	39.8	↓ -3.5	48.0
高齢者や障害のある方への理解を深める	15.6	17.0	↑ 1.4	24.0

目標4 地域福祉を推進するしくみをつくる

事業別評価

(注)「-」は該当なし又は年度末評価事業のため未評価

取り組み内容（深谷市）	H28	H29
来場者数（福祉健康まつり開催事業）	4	—
参加団体数（福祉健康まつり開催事業）	5	5
地域福祉研修会開催回数	—	5
地域福祉研修会の参加者数	—	5
地域福祉計画・地域福祉活動計画の認知度	—	3
民生委員児童委員全体研修会の開催回数	—	—
民生委員児童委員全体研修会の参加者数	—	—
ボランティア交流センター延利用人数	5	—
自治会加入率	4	4
連合会だより発行回数	5	5
広報等の配布協力自治会割合	5	5
民生委員児童委員充足率	4	4
福祉教育の実施校数 （小・中学校における福祉教育事業）	5	5
まごころ訪問実施校数 （小・中学校における福祉教育事業）	5	5
ボランティア交流センター延利用団体数	4	—
民生委員児童委員の認知度	—	3
広報ふかやに対する市民満足度	4	—
コミュニティ補助金の交付割合	5	5
社会福祉協議会への市の補助金交付割合（交付／申請）	5	5

取り組み内容（社会福祉協議会）	H28	H29
チャリティウオーキングの参加者数	3	—
社協だよりへふれあい・いきいきサロンの活動紹介を掲載した回数	5	5
社協だよりへ地区社協の活動報告を掲載した回数	5	5
深谷市社会福祉大会の参加者数	4	3
ボランティア活動保険の保険料を補助した人数	4	4
ボランティア団体への助成金交付件数	5	5
夏休み体験プログラム事業参加者数	5	5
有償家事援助サービス協力会員養成講座の参加者数	4	4
有償家事援助サービス協力会員数	4	4
災害ボランティア養成講座の参加者数	3	4
災害ボランティアの登録者数	4	—
ふれあい・いきいきサロンへの助成金交付件数	5	—
総合的な学習の時間にボランティア団体を派遣した回数	4	—
社会福祉協議会の認知度	3	5
ボランティアかわらばん発行回数	4	5
各種行事やイベントで情報発信した回数	5	5
社協だよりの発行回数	5	5
社会福祉協議会ホームページアクセス数	5	—
社協会員加入率	4	—

深谷市の課題と取り組み（抜粋）

取り組み	現状及び課題	今後の取組み
来場者数（福祉健康まつり開催事業）	イベント等との同時開催により、来場者数や参加団体数は増加しており、参加団体数は、ほぼ目標数を達成している。	来場者を増やし、市民等の福祉や健康への理解を深め、福祉に対する意識の高揚を引き続き図っていく。
民生委員児童委員充足率	平成28年度末で定数265名に対し欠員が2名いたが、平成29年度には欠員が0名となり、充足率が100%となった。	今後も高い充足率を維持するため、民生委員・児童委員の候補者を推薦する自治会へ協力を依頼していく。
広報ふかやに対する市民満足度	平成29年度に健康・福祉ページを新設し、福祉等に関する情報をまとめてわかりやすく掲載を始めた。記事の増加により、掲載することのできない情報が増えている。	「健康」や「福祉」など市民が関心のある内容を情報ごとにまとめてわかりやすく掲載するように努める。

社会福祉協議会の課題と取り組み（抜粋）

取り組み	現状及び課題	今後の取組み
深谷市社会福祉大会の参加者数	開催時期を2月から11月に変更したこともあり、大幅に参加者が減った。	今後は、11月開催の周知を徹底するとともに、参加者に興味を持ってもらえるような講演会にするための工夫やテーマ選びを検討したい。
ボランティア活動保険の保険料を補助した人数	天災害等の発生状況により、ボランティア活動保険の加入者増減があるのが現状。 ボランティア活動保険料の補助人数の増減だけでボランティア活動が盛んに行われているわけではない。	ボランティア活動保険料の補助人数の増加を図るのではなく、ボランティア活動を行う方の意識の向上を図れるようなボランティア講座の開催を検討していく。
有償家事援助サービス協力会員養成講座の参加者数	平成29年度については、2月に開催予定であるので、協力会員数は達成できると見込まれる。	養成講座については、今後も開催していきたい。既存登録している協力会員の中には、現状活動できない状況、または退会した方が含まれている。利用会員と併せて整理をしていきたい。
有償家事援助サービス協力会員数		
災害ボランティア養成講座の参加者数	災害ボランティアについては、随時募集している。養成講座は、実施時期・内容を検討し、今後も実施していく。	友好都市の南魚沼市への雪かきボランティアを今後も継続。また、深谷市で災害が起こった際には、協力を呼び掛ける。
災害ボランティアの登録者数		
社会福祉協議会の認知度	社協の認知度を調査する手法等が現状、中々難しい状態であるが、市民の多くは、社協の名前は聞いたことがあるものの、どのような事業を行っているのか、知らない方が多いのが現状。	地域に密着した事業展開を図り、地域ごとの現状把握に努め、かつ、地域住民や関係諸機関など、多職種の連携を推進していくことで、社協の理解、認知度を向上させていく。
ボランティアかわらばん発行回数		
社協だよりの発行回数	情報がマンネリ化している。	掲載情報の充実を図り、本会のPRや本会への関心度を高めてもらえるよう努める。
社会福祉協議会ホームページアクセス数		
社協会員加入率	近年、加入率は漸減傾向にある。新規加入の拡大を図るとともに、継続して会員になっていただけるよう取り組み方法に改善が必要である。	地区ごとに自治会長会議で依頼することで、会費の使途を説明するなど、依頼方法の検討を行う。また、チラシについてもより理解が得られるような工夫を図る。

目標値の状況（※市民アンケートの回答の中で「できている」の回答割合）

	策定時	中間評価		目標値
支え合いの基盤として、地域の人とつながりを持つ	14.9	13.7	👉 -1.2	23.0
地域福祉の知識を高める	5.3	5.9	➡ 0.6	10.0
ボランティア活動等へ参加する	8.9	9.3	➡ 0.4	14.0
自治会活動に協力する	32.6	32.4	➡ -0.2	43.0
福祉教育の充実	1.3	1.6	➡ 0.3	5.0
広報等で地域の団体の情報を得る	18.8	20.1	➡ 1.3	29.0
地域行事やイベントへ参加する	21.3	21.5	➡ 0.2	32.0
社会福祉協議会の活動を理解する	8.9	11.1	➡ 2.2	14.0

【事業評価全体のまとめ】

計画に掲げられた目標値（中間評価）の推移をみると、順調に上昇しているものもあるが、横ばいや減少といった項目も少なからずあり、関連する取り組みのより一層の充実が求められます。

目標1「ふれあい・交流が盛んな地域をつくる」においては“声かけなど隣近所との交流”、“既存施設を充実させ、有効活用する”、“世代間交流ができる場を設ける”は策定時から減少しており、取り組み事業のあり方を含め、対応策を再検討する必要があります。

目標2「SOSに伝えるしくみをつくる」においては、“避難場所を把握する”といった家庭で取り組むことができる災害対策が低調であり、深谷市で課題として捉えられている自治会へのアプローチのほかにも、各家庭に直接届くような取り組みの強化も必要です。また、社会福祉協議会の課題である災害ボランティア養成講座の参加者の増加につながるような講座のPR、市民への意識啓発が求められます。

目標3「サービスが利用しやすい環境をつくる」においては、目標値（中間評価）の推移は芳しくなく、情報提供方法の仕組について工夫が必要となっています。この点、庁内では「ホームページアクセス数」、社会福祉協議会では「福祉サービス利用援助事業や成年後見制度について社協だよりなどへの掲載」について課題が示されていますが、相談や情報提供体制についてはより広く改善の余地があると思われます。

目標4「地域福祉を推進するしくみをつくる」では、目標値（中間評価）の動向はいずれも低調です。取り上げられている事業の多くが既存団体・既存事業、またボランティアを対象とした取り組みとなっていますが、市民の地域福祉に関する行動を広げるために、新たな参加者を増やすための新しい仕掛けが求められます。